

# 「クエスチョン・ナイン」

『クラウドナイン』の出演者全員に答えてもらった9つのQ & Aを公開！

\* この答えを元にしたインタビューは、劇場用パンフレットで読むことができます！ \*

## ◆質問その1◆

『クラウドナイン』の台本を読んで一番面白いと思った点は？



高嶋政宏

「これ！ ずっと下ネタだ～！ 面白え～！」



伊勢志摩

「出演者全員が一幕で演じた役とほぼ正反対なキャラクターを二幕で演じること」



三浦貴大

「まず配役です。自分が女性役を演じるのももちろんですが、1幕と2幕で演じる役が変わり、さらに100年以上時代が変わっても登場人物は25年しか歳をとらない。そういった設定が自分にとってとても新鮮でした」



正名僕蔵

「一幕から二幕にかけて100年が経過しているのに、登場人物たちは25歳しか年を取っていない設定の不思議」



平岩紙

「難しいんだろうなあ、と思ったら全然ちがった！」



矢野美和公

「この人達、余計なことをしゃべりすぎ」



石橋けい

「一幕と二幕の間で時代が飛び、俳優は2役演じられるところ。同性愛者が沢山でてくるところ。」



入江雅人

「つい自分が演じる役を中心に読んでしまうのですが、ハリーがエドワードに手を出してるだけでも相当なんです、わりと誰彼かまわずの感じが、『何をやってるんだ、この人は』と思い面白く感じました」

## ◆質問その2◆

『クラウドナイン』は一幕と二幕で演じる役柄が変わります。どちらか一つだけ演じるとしたら、どちらを選びますか。その理由は？



高嶋政宏

「う～ん、難しいですね……エドワードの自分の性同一性障害を嘆くシーンのセリフがたまらなく好きだけど、クライヴのほうが出番が多いからな……でもエドワードかな」



伊勢志摩

「二幕のベティ。はじめて演じるタイプのキャラクターだから」



三浦貴大

「二幕のジェリーです。男性であるジェリーのほうが、もちろん動作から感情まで理解しやすいですし、内面的にあまり演じたことのない役柄なのでとても興味深いです。一幕のベティも興味深いですが、女性であることから非常に難解で、役を作ることにあまりに時間を使ってしまう。しかし新たなチャレンジという意味では、楽しみな一面もあります」



正名僕蔵

「召使いのジョシュア。男なので」



平岩紙

「エドワード。子役だとなめてはいけない。エドワードは少年であり受け止めきれない感情がどんどん湧いてくる多感な時期。そこが難しくもあるので」



奥戸美和公

「トミー。セリフが台本にないからです」



石橋けい

「一幕：純情な娘エレン。今まで演じたことのないキャラクターだから」



入江雅人

「きっと、やり甲斐が、あるのはハリリーのほうだと思うのですが、何となくマーティンの情けない感じがやってくうちに段々面白く感じるんじゃないかと思います」

### ◆質問その3◆

ここからはパーソナルな質問です。この仕事を始めたきっかけはなんですか？



高嶋政宏

「今となって振り返ると相米慎二監督の映画『光る女』のオーディションに落ちた事かな。相米監督と話がしたいのが理由で深く考えずに受けたオーディションでしたが、もちろん落ちて、その帰り道。突然、手が震え、もしこれ受かってたらオレ映画に出てたのか……と緊張して、それから俳優というものを意識し始めましたから」



伊勢志摩

「大人計画のお手伝い募集に応募したこと」



三浦貴大

「元々、父がやっていた仕事なので、将来の仕事の選択肢の中にはずっとあったのだと思います。それと、給料制の仕事よりも、何かを作った報酬としてお金をもらえる仕事のほうが、長く楽しく続けられるのではないかと思っていたので、この仕事を選びました」



正名僕蔵

「舞台を観に行って、とある女優さんにひと目惚れしたのが、そもそものきっかけです」



平岩紙

「大学に行く意味がわからなかったから、三者面談の前の夜に決めました」



矢戸美和公

「大人計画『猿を放つ』を観たのが始まり（伊勢さんがとても可愛かったんですよ）。その後はただ生活してたらこういうことに」



石橋けい

「やりたいという気持ちだが、抑えられなかったから」



入江雅人

「横浜にあった映画の専門学校に入って、演劇科の仲間と劇団を作ったことから、始まったと思います」

## ◆質問その4◆

あなたの価値観&センスが形成されたのはいつだと思いますか？



「価値観が形成されたのは家族が病気で倒れた後、  
センスが形成されたのは性倒錯者たちとの交流が始まった頃」



「20歳で大人計画にかかわりましたが、やはりそれが大きいと思います。そこからの数年間」



「大学生の時代かと思います。20歳前後ですね。高校生まではただただやりたいことばかりをやっていましたが、大学で一人暮らし、バイト、そしてライフセービングという海での監視救助活動を経て、価値観が形成されたような気がします。センス、という点ではまだ形成されてないような気がしているのでなんとも言えません……」



「センスはともかく、価値観は高校生の時に形成された気がします」



「幼少期、一人遊びを始めた頃から。家族関係が面白かったので、そこで作られたように思います」



「形成したほうがいいですか？ 形成する方向で考えます」



「二十歳の時の初舞台（岩松了さん作・演出）。面白い芝居とはこういうものだとその時に強く感じたことが、演劇人生の大きな第一歩になったと思います」



「何だかんだで、割と年を重ねてからな気がします。一人芝居を再開した2010年から、再び自分の作品を書くようになってからじゃないのかと」

## ◆質問その5◆

「今のわたしを構成する3つの○○」。どんな3つが入る？



高嶋政宏

「旬のフルーツ、水素、シルビアが差し入れて貰ったパン」



伊勢志摩

「生活雑務・仕事・家族」



三浦貴大

「漫画、ゲーム、酒。3つ並べるとロクでもないですが、数少ない趣味の3つです。これがないと、なかなか生き辛い世の中になってしまう気がします。あくまでも、自分の中では、ですが」



正名僕蔵

「吉野家、吉そば、カレーショップC&C」



平岩紙

「家族との日々。出会った人達。ご飯」



尖戸美和公

「ブス、下手、根暗」



石橋けい

「妄想（好き）、愛情（深い）、怖がり」



入江雅人

「主に70年代の好きな映画。心に染み込んでもる音楽。笑ったり涙したことごと」

## ◆質問その6◆

芝居する時の一番の原動力は？



高嶋政宏

「これ面白い！という興奮」



伊勢志摩

「日常からの逸脱」



三浦貴大

「お客さんに見せること、と言いたいところですが、一番は、自分の役をしっかりと演じてあげたいという気持ちです。自分が演じる役の人格を表現できるのは自分だけですし、役に失礼なことはしたくない、という気持ちで芝居をしています」



正名僕蔵

「見栄」



平岩紙

「普段ゆったり過ごすとかソリンがたまります」



宍戸美和公

「残りの健康で動ける時間を考えた時、「わ！やばい！やるぞ！」ってなります。」



石橋けい

「好き（だから楽しい）と思えること」



入江雅人

「演劇愛」

## ◆質問その7◆

### あなたが理想とする恋愛とは？



高嶋政宏

「空から隕石降ってきたような必然の偶然で始まり、固執せず追いかけないが会えば離れていた年月も関係ない相手に根掘り葉掘り質問しない恋愛」



伊勢志摩

「これからは『平穏』」



三浦貴大

「平和。これが一番だと思います。お互いに思い合って、感謝の気持ちさえあれば、あとはなんでもいいし、どうとでもなるような気がしています」



正名僕蔵

「“相思相愛” ぐらいしか思いつきません」



平岩紙

「風通しよく、ほんわかしていたいですねー」



矢戸美和公

「ドキドキする期間は飛ばして始まるのがいいです。面倒なので、やっぱり友達でイイです」



石橋けい

「何でも“半分こ”できる関係」



入江雅人

「タイムトラベルして出逢った素敵な人と恋に落ちるも、何かクライマックス的な事が起こり離ればなれになり、二人とも記憶を失う。そしてエピローグ的な感じでどこかの時代のどこかの街角で偶然すれ違う。すると、どちらからともなく「あの..」と声をかけ、再び恋が始まるみたいな王道パターン」

## ◆質問その8◆

あなたのチャームポイントとウィークポイントを教えてください。



高嶋政宏

「チャームポイント＝好奇心が尋常じゃないところ。ウィークポイント＝どんな真剣な話をしても何故か最後、下ネタになってしまうところ」



伊勢志摩

伊勢志摩「チャームポイント→くせ毛。ウィークポイント→くせ毛」



三浦貴大

「ウィークポイントはたくさん出てきます……。注意力散漫ですし、怒られると一ヶ月くらい落ち込みますし、緊張するとお腹壊しますし。そんなところもチャームポイントだと思ってもらえると幸いです……」



正名僕蔵

「チャームポイントは、おでこ。ウィークポイントも、おでこ」



平岩紙

「意外とドンとしている。急がないといけないのにのんびりしてしまう」



矢戸美和公

「シミ。シワ。(←名前が入ってるんです。「ど」「こ」で完成)」



石橋けい

「ほっぺのホクロ。口角が下がりやすい」



入江雅人

「あまのじゃくなところや好き嫌いが激しいところが、チャームポイントであり、ウィークポイントです」

## ◆質問その9◆

あなたの人生にタイトルをつけるなら、どんなタイトルをつけますか？



高嶋政宏

「変態な人生」



伊勢志摩

「軽一い、波乱万丈」



三浦貴大

「『困い』あまりアクティブな趣味がなく、様々なことは部屋や車中でやっています。葛藤するのも、希望を見出すのも全部、閉ざされた困いの中ですので、こんなタイトルです」



正名僕蔵

「『悔いはありません』」



平岩紙

「ユーモラス」



宍戸美和公

「ただ生きる」



石橋けい

「石橋を叩いて壊せ（仮）」



入江雅人

「『レッツロックアゲイン』。ジョー・ストラマーさんのドキュメンタリー映画のタイトルですが、良いタイトルだと思うのでこれをお願いします」